

美山木匠塾

2014年度活動報告書

2015年4月30日

【目的】

国土の7割を森林が占めている日本では、木を生活に活かし、森と折り合いをつけながら木製品が生産され、活用されていた技術が残っています。しかし、それらは衰退の一途をたどっています。木を活かす物づくりには、それが物になるまでの過程を知る事が大切です。日本の林業地がどのように木材を生産し、切り出された原木がどのように木材として流通するのか、それを意識してこそ、木材の活かし方を学ぶことができます。

美山木匠塾は、京都府南丹市美山町を活動の中心と位置づけ、建築や環境を専攻して学ぶ学生が主体となり、現地の森林資源を活かした製作物を企画提案し、それら企画物が他地域との交流や地域おこしに繋がっていくよう製作・実行してゆく事で、学生が集団活動や地域コミュニティのあり方、現実の製作活動などについて学ぶ事を目的としています。

【体制・任意団体】

1) 事務局

事務局長・塾長：羽原康成

(ah 主催・京都府立大学非常勤アドバイザー・摂南大学非常勤講師)

2) 京都府立大学・環境共生教育演習 I (7月~9月)

京都府立大学教員：松原 斎樹 (教授)

生命環境学部、公共政策学部、文学部の学生 (12名)

3) 美山木匠塾・有志活動 (通年)

学生幹事：淡路谷直季 (京都府立大学 1年生)、安田美沙紀 (摂南大 1年生)

京都府立大学環境デザイン学科の学生 (5名)

摂南大学理工学部建築学科の学生 (7名)

4) 協賛企業

ah

丸善ボタン株式会社

【活動方針・方向性】

- ・地域に根付く活動となるよう、5年を超えるロングターム、2～3年で実現するミドルターム、毎年定期的に製作するショートタームと3種類の活動を企画し、学生が明確な目標をもって、地域との交流を深めながら製作活動をおこなう環境作りをおこないます。
- ・京都府南丹市美山町だけでなく、他地域の林業地などとの交流を深め、塾生が多角的な視点によって、美山での活動を認識できる環境作りをおこないます。
- ・川上地域だけでなく、木材消費がおこなわれる川下地域とも交流を深めるため、川下企業の見学会を不定期におこないます。
- ・デザインの公益性を重視し、製作図等公開の要望があった場合は、作品の製作図等を公開します。※著作権・意匠権を放棄するものではありません。

■ 美山木匠塾・活動報告

【活動概要】

2014年度は、環境共生教育演習Ⅰが実施され、有志の塾生により来年度に向けた、積極的な製作ミーティングが進められるなど、学生主体の具体的な取り組みが始まりました。また、摂南大学理工学部建築学科にも美山木匠塾チームが発足するなど、新たな展開が生まれました。

- 1) 京都府立大学 環境共生教育演習Ⅰ「美山木匠塾」
実施体制：松原斎樹 教授、羽原康成、京都府立大学1年生（12名）
実施期間：（製作）2014年9月1日、2日、8日、9日
（現地引渡し・メンテナンス）9月27日
製作場所：京都府立大学木工室
設置場所：京都府南丹市美山町ちびっこ広場

活動目的：京都府立大学の選択制授業である環境共生教育演習Ⅰにおいて、山や森に囲まれた実地で木造について学ぶ場として、木匠塾が組み込まれている。全国の木匠塾がおこなっている活動と共に、美山木匠塾の取り組みについて紹介し、実際の木に触れて製作を行う事により、木と人・モノとの関係をより深く学び、実感する事を目的としている。

》 環境共生教育演習Ⅰ・実施内容 ‹

9月1日、2日、8日、9日（京都府立大学木工室・デッキ製作）

参加者：松原斎樹 教授、羽原康成、京都府立大学 1年生 12名（6名/1日）



〈実施成果〉

木材加工をおこなった経験がほとんどない学生の手により、設置場所となる美山町の地域産材（北山杉）による木製デッキを4組製作しました。極力電動工具を使わず、木材加工から塗装までを行う事で、実際に木に触れ、汗をかいて加工をおこなう事で、机上では学べないモノづくりの大変さと楽しさを実感する機会になりました。



9月27日（現地設置・京都府南丹市美山町ちびっこ広場）

参加者：産業建設課大森課長、中島主査、大野地区長、副地区長、羽原康成、京都府立大学 1年生1名



〈実施成果〉

デッキ製作は2年目を迎え、7組のデッキが美山町ちびっこ広場に設置されました。デッキの数が増える事により、ちびっこ広場は少しずつ木質空間に近づいてきました。また、今回の現地設置にあわせ、2013年度に制作したデッキのメンテナンス（研磨・再塗装）を行いました。設置したつみ木デッキは地域運動会などで活用されるなど、地域での活動に活用されています。

2) 有志活動

① 活動名称：川下企業の見学会

実施体制：羽原康成、美山木匠塾有志

実施期間：2015年3月19日、31日

実施場所：一級建築士事務所 morizo-、株式会社イトーキ

株式会社日建スペースデザイン（大阪）

株式会社内田洋行（大阪）、パワープレイス株式会社（大阪）

活動目的：

美山木匠塾では、美山の山と木について学び、木製構築物等をデザイン・製作しますが、あくまで川上と呼ばれる地域に限った内容でした。そのため、川下と呼ばれる設計事務所や工務店などの見学により、川上から川下にかけていかに木材が消費・活用されていくのかを実感する機会を作りたいと考えています。吉野杉を多用した木造住宅を設計する一級建築士事務所のMorizo-、スペースデザインにおいては日本でも有数の株式会社日建スペースデザイン、木製ユニットスペースにおいて先進性をもって開発に取り組む内田洋行株式会社と、そのインテリアを担うパワープレイス株式会社、家具メーカーとして著名な株式会社イトーキなどの見学を通して、実際の設計現場ではどういう流れで空間がデザインされていくのか、その中でこういった割合で木が使われていくのか等を学生が実感する機会として、川下企業見学会を開催しました。

3月19日



※一級建築士事務所 Morizo-

参加者：

・京都府立大学 人間環境学部
環境デザイン学科
(1年生4名)

・摂南大学 理工学部
建築学科(1年生6名)

〈実施成果〉

吉野杉を多用した住宅を設計する一級建築士事務所 Morizo-では、日本の木をなぜ使うのか、住宅実施設計図書やスライドなどにより具体的な事例を示しながらレクチャーいただきました。参加学生にとっては、実際の住宅設計がどのように進められるのか、どのような図面が必要になるのかを実感できる機会となりました。

※株式会社 イトーキ

参加者：

・京都府立大学 人間環境学部 環境デザイン学科(1年生4名)

・摂南大学 理工学部 建築学科(1年生5名)

〈実施成果〉

大手家具メーカーとして知られているイトーキにおいては、オフィスビルでのゾーニングに対応するインフィル商品や、それを実際に活用しているオフィススペース、そこで扱われる椅子やテーブルなど、様々な商品に触れる事ができました。

3月31日



※株式会社内田洋行

※パワープレイス株式会社

参加者：

・京都府立大学 人間環境学部
環境デザイン学科(1年生5名)

・摂南大学 理工学部
建築学科(1年生2名)

〈実施成果〉

内田洋行は、製図板やマジックインキで馴染み深いですが、教材関連ではトップシェアの企業です。パワープレイスは内田洋行から分社化した空間デザイン事務所です。内田洋行においては、空間演出ユニットもソフト・ハード共にグループ会社の協力で開発できる事から、空間デザインとして扱える領域が幅広く、柔軟性に富んだ企画提案がおこないやすい環境づくりを学びました。また、パワープレイス株式会社においては、新装したばかりの、フリーアドレス・スタイルのオフィスを見学できる機会に恵まれました。

※株式会社日建スペースデザイン

参加者：

- ・ 京都府立大学 人間環境学部 環境デザイン学科（1年生5名）
- ・ 摂南大学 理工学部 建築学科（1年生6名）

〈実施成果〉

日建スペースデザインは、もともと日建設計のインテリア部門が分社化した、国内有数の空間デザイン事務所です。場所を新たにした日建スペースデザインでは、ラフな島状のグルーピングをおこなったオフィス空間を見学しました。また、チーフデザイナーの米澤研二さんに、仕事の進め方や、デザインに対する考え方をお話頂きながら、多くの作品を見せて頂く機会に恵まれました。

② その他の活動経過・報告など



2015年2月12日 摂南大学・美山町現地見学会

京都府南丹市美山町ちびっこ広場

出席者：

羽原康成

摂南大学 理工学部 建築学科

（1年生4名）

〈実施成果〉

2015年度も計画地となる、美山町ちびっこ広場・現地見学会をおこないました。また、美山町かやぶきの里にも足を運び、美山町の特徴的な集落を見学しました。



2015年3月28日

第1回・現地プレゼン・現地ヒアリング

京都府南丹市美山町ちびっこ広場

出席者：

産業建設課大森課長、大野地区長、副区長

羽原康成

京都府立大学人間環境学部 環境デザイン学科

(1年生2名)

摂南大学 理工学部 建築学科

(1年生1名)

〈実施成果〉

2015年度に向けた現地プレゼン・現地ヒアリングをおこないました。2015年度はミドルタームとして計画していたヤタイを製作してゆく方向でプレゼンテーションをおこない、承認されました。また、製作するモノの方向も、現地ヒアリングを通して明確になるよい機会となりました。

※プレゼン資料は報告書最後に添付

【活用等成果報告】

2014年7月

Web マガジン「月刊 杉 web 版 102号 2014-07」への寄稿

美山木匠塾の活動について、2013年度・美山木匠塾学生幹事の小仲美穂と、羽原康成が寄稿しました。

<http://www.m-sugi.com/102/contents102.htm>

2014年10月16日

「川上村・やまいき市」(ヤタイの活用)

奈良県・川上村地域おこし協力隊において行われていた「やまいき市」が、10月16日に川上村を抜け出し、大阪・天満橋においてはじめて村外で開催されました。その際、美山木匠塾において設計・製作した「ハシゴのヤタイ」も活用頂きました。ハシゴのヤタイは分解して軽トラに載せる事ができるよう設計されています。この携帯性の良さが活かされ、イベントは盛況のうちに終了しました。

※奈良県・川上村において、毎週土曜日におこなわれる「やまいき市」においても「ハシゴのヤタイ」を活用頂いています。



川上村地域おこし協力隊による、大阪・天満橋での「やまいき市」

【成果と課題】

美山木匠塾は有志活動としての参加者数が増加し11名において活動をおこなう事ができるようになりました。今後も地域を盛り上げ、若者が興味を持てる活動となるよう、積極的に創作活動や地域交流活動をおこなっていきます。

2014年度の美山木匠塾の成果は、昨年度の反省点であった製作スケジュールと実行時間とのギャップを解消し、作業予定時間をほぼ予定通り終了する事ができた事です。また、有志活動としてのメンバーも増え、今後の活動をより積極的に行ってゆく環境が整ってきました。実際の製作においても、効率のよい作業方法を模索しながら協働し、集中して木と向き合う体験は、学生が机上だけでは得られない経験を得る事ができました。反面、作業の疲れから手元を狂わせ電動機器を損壊する事故が発生しました。怪我はなかったものの、さらなる安全面に対する教育と配慮の必要性を痛感しました。これらの反省点については2015年度において改善してゆきたいと思います。

以上

2015.4.30

文責 羽原康成

